

房總志

料

本篇  
續篇

二

庫文閣内		
一	三六四	和
二	八	書
三	一	
架	冊	號



夷瀨郡

地三六

内閣文庫	
番號	和 36483
冊數	11 ( 7 )
函號	174 104



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

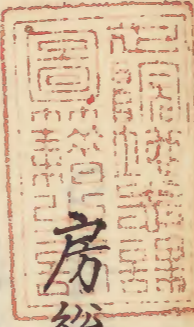
Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





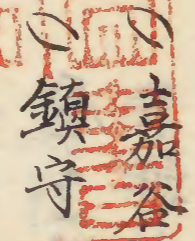


房総志料續篇卷之二

○夷隅郡

内一の九一四號

麻谷 萬騎城の東に隣る



鎮守 熊野大権現



大慈山 慈雲寺

天台宗

本尊 觀世音菩薩



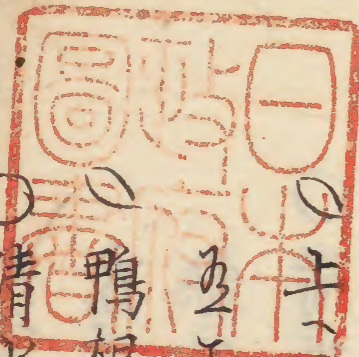
中流に對せる名所の一つ 志料に移す

五つれハ字邊にハるる



鴨根 鳧峯 鳧嶺

○清水寺 觀音堂六相傳竹田といふ近の建る處





凡一千年又近しとかる古堂ハ修造のミして古  
ありなき事ありと元録年中に至り扉と好  
める習俗今の新造の堂とふなりぬ 古堂ハ今の浄土の  
不勤堂となる  
○清水寺観音堂ハ割居の以丙丁の災ハ四維に  
いふ非なり今堂上又截る如の頓礼の札又赤書  
安大永の以迄のその多あり長き尺五寸行の  
厚き板又年月本里姓名等紙彫刻し朱漆の  
と鮮しして乃ち厚きその也後ハ柿木厚紙あり  
易る等便なる事ありハ大しきものなり

○音羽山清水寺 天台宗 東叡山末

本堂千手観世音慈覚大師御作

坂東三十二番札所

因札七番 昔ハ六番

奥院十一面観世音傳教大師御作

因札八番 元七番

伊南頓礼才一番

客殿本尊阿彌陀如来彌陀頓礼十八番

縁起曰人皇五十代桓武天皇の御宇傳教大師

十二面観世音の像と此地又作る後平城天皇大

同二年丁亥慈覚大師千手観世音の像と此



地は安室初て西尊と安室して草創と大具  
田村の軍堂と云ふと 人皇六十五代花山法皇  
坂東三十二番の神陀所と定たまふ

清の寺の事記せるもの云文昭十三年丑年秋  
八月火災より諸堂并より方丈等焼失とれり

西堂 本堂 眞院 八残と云ふと 文和十癸亥十一月廿日の夜  
諸堂焼失但仁王門の三残と云ふ物も西堂本

尊並宝物ハ恙ナシ

音羽山清水寺表に鴨根村茶屋二軒あり其所に  
石碑あり南無觀世音菩薩と刻せり社所より

北は向ひ山よりつきつらうり右へ折れて北に登り又危  
く折れて登る少く平らなる処を北は向ひ危  
の方より虚空藏堂あり昔は右の方山中よりあり求  
園持重と補して行場なり後日目の形を  
見よと寂く奥多きとして自ら其程の毛起るを  
境界なりしと云ふは仁王門元少く高き地  
形なりし今ハ平地となれり 雷門南向瓦屋  
根樓つ薬師如来と安室と元の門は東向至てた  
てしひくくつき表は是連凡二百少 二層と一  
層と 雷  
門ハ東風伯西雷公ニ像と安室と門と入る右の方



盤盤次は百体観音堂次は熾々堂あり石階を登  
る事二十五級右の方地藏尊と安坐をも上は階梯  
あり下は池ありちひら千尋の池と云正面は本堂南向  
八間四面文化十四年丑十一月新まきまき昔の堂  
ハ六間四面也西の方岩窓除危茅師如春も後  
山上熊野社熾々も後安部公番所石階の下西  
の方ハ小堂あり其次奥院東向四間四面昔の堂  
ハ間敷同後ハ隱宅あり隱宅の前ハ客殿の跡  
あり元の客殿ハ六九位と覺へば客殿の本尊  
ハ今本堂内陣東北の方ハ在り是より雷門と出

本堂の東の傍より後只廻り石の方徑路ハ中庭  
へ下る真直下れハ加谷村の不入といふ所あり  
雷門ハ不入迄凡二百五十歩あり

抑當山ハ熊野権現音跡の地より八皇五代極武天  
皇の御宇傳説方ハ此地より初め十二面觀世音  
菩薩と彫刻ししもハ五十一代平城天皇大同二年丁  
亥年慈覺方ハ千手觀音の像と彫刻しし  
ハ大且形田村ハ平代安徳天皇の御宇壽永  
二癸卯年内野郷中治尾長守政重兩堂と重  
造りし後ハ又其後文明十三年辛丑八月火災よりカ



と焼失く其後宝永年中西堂と再建なり

○伊南順礼縁起 清水奥院才一番なるありて  
述抑由来試たつて奉まへ人皇十三代の帝と云  
御門院と申奉るる以上總女殿と申公家おそく  
まへ脚果報の余り法子十人存する中にも法次  
男ハ才智人又勝れ所依の伊南の庄中奥落村の  
法陣屋より生れさせ給ふ給る又建仁三年癸亥  
三月始の事なり又九死一生の病と云け給ふ折若  
上総女殿ハ鎌倉よりありてまへハ母らとの法若方限  
なく醫術とこそせとも預ありてされハ三室より

く行推えとるされれハある夜空を爰とるるハ  
伊南の内又観音の多像三十三躰御座なりて  
順礼せし病氣必平愈とて明くくは法つがあ  
れハ法由依宿金剛房と云つて順礼並縁歌  
と云ふこれ御陣屋よりありて又次郎殿はたや  
と物のつゝ平愈成就まへませし諸人是と  
傳へ順礼今亦至ると群集とて云爾

○赤中出理観世音 延歴年中傳教大師山中  
より堀出給ふ観世音如理の地と云ふ薩谷  
と云順礼坂のともあり大根里へ誠心と云ふ所の



東の谷是なり

西明寺 天台宗

本尊阿弥陀如来 弥陀呗礼才十九番

鎮守加茂大明神 按るは村名に原く

小高

鎮守小高大明神 一村大根と極く 孫と稱せり  
ハテ同

福聚寺 天台宗 伊南順礼才三十一番

東寺 小堂也 同 才三十二番

此村鴨根の小高とトセとも別村なり

小高村の氏古塚と發破鏡二枚と此周七寸餘

背小一亀二層の図と禊一亀と鼻とす又此は燕尾

草と禊と塚例と字して殿部田と云思ふ

室町氏のゆゑ小封の人の住一地なり

○中流 名

唐木崎 大寺氏の家の山又奇なり赤松あり故二

名つたるは上總の方言よか キキ ンナ キキ ンナ

今う キキ ンナ キキ ンナ キキ ンナ キキ ンナ

と云 キキ ンナ キキ ンナ キキ ンナ キキ ンナ

○金胎山見性院中流寺 禅宗



文永二歳六月五

中麓寺殿喜山宗悦大居士  
見性院殿月窓妙光大師

文永三歳二月朔日

文化二乙丑歳迄五百三十七年

前惣持當寺開山算室若叢大和尚禪師

○寺室石碑 黒石長ケ二尺余幅一尺余厚サ二寸行

阿弥陀佛真向觀世音大勢至横向三尊来迎の

像下野カ玉芳賀郡藤岡村あり土中出现

弘法大師之法作石佛三尊来迎之阿弥陀如来

御勘定奉行太田橋麿守是と

御上りの石より致し法藏の安置其處勢国守

惠雲和尚是佛降領ス其後當寺十四世惠寂和

尚代惠雲より當寺へ奉納せし者也

安永八己亥年八月 見性院惠寂惠雲よりあり

○中麓城跡 中麓寺の前の山也

○熊野大権現 新田村の鎮守城山溪東よりあり

○八幡宮 中麓の鎮守

○神明社 押日 堀込町山の鎮守

○押日 惜日 又 押樋と書入也



○願王山沙羅樹を房葉除る 天台宗

堂本尊華師如來

客殿本尊釋迦彌陀西尊彌陀順礼才十七番

○中泠山觀音寺 天台宗 七寺

本尊觀世音菩薩因札六番伊南順礼才二番出  
人の風説は昔大東の天神と押日の觀音と云  
習はたり押日の觀音寺は後唐天神と安が  
故に寢帳と懸るに近き以東路山と台嶺の命は  
より門後順行の節作せられは楊柳觀音  
ありと云されしに 此春寢帳 文政五年三月 尊像と

相しありと云るをあるゆきは御佐八為覚大師の

りしに

因札御祓奇四堰西念印刻より知享子保十三年

辛亥六月二十三奉田之 一笠森 二利根里 三野田 四勝見 五宮 六廣の寺堂 傳あり

享保十九年寅三月押日觀音寺とかくて 六番三

十四番申しれる今よりまこと用 享保十三年の本書の字大 坪村史石多しと云人の知る

見ぬ

○鎮守八幡宮 原矢田山王

○部田

○阿部修の保あり元来武別忍領白川 分石と云



又別五三二下福寺今五千石の保あり

○中洲山遊見寺 日蓮宗

○四堰

○鎮守神明宮

○真福寺 天台宗 東叡山末

本尊阿弥陀如来 淨土頓礼十六番

○福原

○鎮守神明宮

○法泉寺 天台宗

本尊阿弥陀如来 淨土頓礼才十五番

○小福原

○白井 名

○東鑑又上總外八郎廣常の甥白井十郎といふもの

を按より本郷白井村又城山といふ處あり何れ

の人の傳といふより不詳思ふ又此者ありん

或疑下流より白井といふ地名あり廣常の甥波

去又傳といふありんと云れとも千景上總鑑

なり〜の八名一國あり皇子姫の他邦又他處

キヤリ

○東傳記又上總外八郎平廣常御在郷上總下總



○ 御とあり土地詳なり後人参考の事あり  
と絶す

○ 前記せし白井古陣の下に池沼あり古俗呼て  
物置淵といふ是則白井十郎の物置とす  
也且後世物置ありとの再彼地は係りやね又

考ゆ  
按今山りの民鳥とてうり性  
磁器片瓦あり掘得

○ 或云陽山より白井物置といふ人伝し年代不詳

○ 西善寺 天名宗 東叡山末 中嶋あり

○ 伊南順礼才四番

○ 満徳寺 天名宗 其東あり

伊南順礼才五番

○ 行人塚 三門村

○ 伊南順礼才六番

○ 八幡宮 別當東福寺 天名宗

弥陀順礼才二十番

○ 不動尊 山下にあり年中石断例又岩窟あり

○ 鍾乳石と云々 鍾乳あり石脂の類あり

○ 別當市場 潮音寺 天名宗

○ 伊南順礼才三番

○ 長者町 昔柴胡系と云ふ  
白井々の新



田也今ハ市街とある市日四九

○飯繩権現 白井ヲ属ス

○鎮守天満宮 縁日二月廿五日祭礼八月十五日

○千日堂

○本尊地藏大菩薩 定朝 地蔵尊礼才廿六番

俚教又長者町の地藏様所ツ小賢ノ徳吾未

拜

○夷隅郡寺御河流の潮際ニ贅残莫多産之

とも勇武の泥海又産之和の肥大あり如き

本郷赤鮮物又饒あり若師ゆるも利とせん

○贅残莫多シライヲと訓之此地又産之白鯧あり

於下又彌爾ミ多ミの類あり

○福原 駅 日津

○鎮守神明宮

○法泉寺 天治宗

○弥陀頌礼才十五番

○小福原

○江場土

○海見寺 天台宗

地藏大菩薩 海中出現 地藏頌礼才十五番



本尊阿弥陀如来 弥陀顺礼才十一番

○宮前

○日在寺

○伊南顺礼才七番

○永閑寺 天台宗

○客殿本尊阿弥陀如来 弥陀顺礼才二十二番

○内野々 若山 新田 深堀

○圓通寺 日蓮宗 若山宿より

○伊南順礼才八番

○東泉寺 中川より

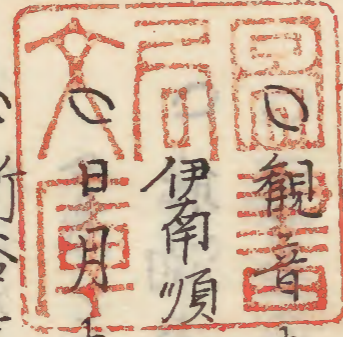
伊南順礼才九番 地藏順礼才三十二番

○四門堂 若山<sup>ひら</sup>堀<sup>り</sup>登り口中<sup>り</sup>あり

伊南順礼才十番

寺沢<sup>り</sup>あり新<sup>り</sup>田の字布施村<sup>り</sup>出る道也

伊南順礼才十一番



新<sup>り</sup>田の鎮守

○新谷寺 禅宗

○釈迦谷 うれハ席<sup>り</sup>なれハま<sup>り</sup>と出<sup>り</sup>

○名かん<sup>り</sup>今ハ堂<sup>り</sup>あり竹地<sup>り</sup>古<sup>り</sup>釈迦堂<sup>り</sup>建<sup>り</sup>一<sup>り</sup>

○<sup>り</sup>釈迦谷の名是れ又厚き<sup>り</sup>た<sup>り</sup>



○ 釈迦谷寺 天台宗

本尊薬師如来

○ 門より仁王尊と主佛へ安長志千光寺大破の時佛堂へ  
持来たりと古伝なり 頭足一本樹古へ再興と不許  
今漆と加フ

○ 能満寺 禪宗

○ 岩屋の茶師如来 弘法大外御作

三尊岩屋の所少くとも其海に在るといふる  
所かゝりたるものいふに窟に入りて右の傍に法丈七八尺  
斗の仏像を釈迦の法衣の傍にありと云ふ

三十五番 釈迦谷 常樂寺

○ 鎮守妙見大土佐村氏神の傍にありて散龜と神  
事とありと云ふ 妙見尊ハ正覺坊といふ地又系  
所あるお土散龜を其形をいふおなる所ありと云ふ  
之殊にすつりんの居る如くハ蛇ありと云ふも云  
なり

○ 東学院 天台宗 修験

本尊不動明王 岩和田並尊像別家

○ 浄鏡寺 新田よりあり 十王寺と云

本尊地藏大菩薩 始丁十王 宇之慶文作



運慶鎌倉住人 湛慶 康運 康辨 康勝 運賀 運助 八里慶

ウ子なり 大佛師 鎌倉志に見ユ

或曰往昔安部公の臣知行見分の御持堂より休十五の  
像一躰極として至麻久から目まて極と云ふんとせ  
しうりふ附て難し其里人作傳ありと云り依て彼  
土泥しうれば忽ともあきりし依て此由と云ふ人  
と云ふも田北六及方壽附せりと地巻明礼才三十  
一番

○浄福寺 天台宗 東叡山末新田

伊南順礼才十二番

○弥陀順礼才二十四番

○坂水寺 天台宗 東叡山末 乾沢山と号す

伊南順礼才三十番 とうの観音といふ

弥陀順礼才二十三番

○日在 後に出ス

○内野村の山中よかぐみ谷といふ和みり或ハあがみ  
やつと云土俗流て境谷又ハ薊谷と作るをこのハ非之  
相傳天心中万喜城陥の日土岐氏の空懐抱の児と  
推乃ハ女取ハかくるあうとみ谷の名ありと  
○或曰内野々々新田野八幡と云松子めんと云和



○あり古ハ新田野八幡宮の氏子なり

○内野村と云ふ如く高サ壹尺五寸許の十王の像と

安んじ閻羅の彫跡なり生る如く壯髪魁顔の

相ありとも視るをみる所見毛起は其他秦

○廣五官の汚王隨きよ形と没く獄卒奪衣波女の

如き形貌隨余毀しとも是亦そつ

○釈迦谷村の二王とも鎌倉の以の名刻あり

廿章十五丁淨鏡寺ノ如く云へり

○釈迦谷村と大佛多敷あり云ふ如あり古ハ盧舎那

の建し地と云ふ又石茶臼とて石窟も茶臼の像と

彫刻するあり年代悠遠とて鑿金跡半減し且亦

鎌倉の以のそあり一寺と云ふのあり

○釈迦谷村と釋迦谷寺といふ名家の負刻あり堂内と

釈迦の古像と云杖持ハ不動曰比咄つ也工翫精妙と時

俗とありて装治を叩修の日忍明と失とそれと

り永く厨と封と又彼寺と仁王の面貌厨臺

一手足所と異とあり其製首体一木して

片木と傳舎し膠漆と加つて真容と失と

○日五接又日五白井押日おハ往古高きの人巡りせ



時名つゞくる夜日在と通くする時ハツヤ  
ある又日在りぬ又日在と名くつゞ白井へ来りて  
ハ薄日あり故又薄日うすひと名くつゞ押日へ来りてハ  
日暮りり日と悟え悟日と名付たる所  
右歌今観音寺の法縁寺  
あつらうとつらふの茶まづむつそめ  
月ほそむふ中流の里  
是も旅行の奇なる所

○日在村といふ都々城山といふあり其形よく色ハ  
赤粉の如く海根下より名鐘倉の以廣常り  
物主なりといふるその住地なる

○享保の次日在村の民城山の例ある山田と鋤朱  
一瓶と堀以此人をもく朱といふなりとて  
河あり又都々盡く洗ひ空瓶を持て去と鐘倉の以  
廣常り部下の麓よりその如く

○或云朱瓶と溜井を洗ひるる又其水皆赤く  
なりあり又其男の尻盡く朱を染るれハ里人  
住く戯名して赤尻と云ふ

○夫瀧川の下流海へ流き宗々如淡鹹相闘或  
已塞或開き其下と異なり近ココ在其塞如一里行潮



あまを湛へ望陀市原等の泥海に儼ひ蛤蜊牡蛎魁  
蛤朗光等のぬと産と本郷の海はあり造物  
氤氳の化窮ふき事知し

○近き日在浦海底よりあまを多く採る曾我  
野邊のわたりよはされハ志賊一又河海の畧  
み底の柵欄より刈て牡蛎を採り獲る

- 西光寺 天台宗 北日在り
- 伊能澄 猪尾澄 深堀の枝村
- 深堀
- 正福寺 天台宗

伊南順礼才十四番

弥陀順礼才十六番

○中魚落郷 寄濃

○長栄寺 天台宗

伊南順礼才十三番

弥陀順礼才二十五番

○東光寺 禅宗

○大原寄瀬の新田今八市街同様なり

○小濱 浦の惣名

○伊豆山寺 小佐部 ころまぶ



○伊南順礼才十六番

○小佐部又大濑候の小保あり伊南八千石と知る

○新光寺 天台宗 法田俗又と云ふ田と云

○伊南順礼才十五番 地彦順礼才三十三番

○弥陀順礼才二十七番

或曰新光寺客殿本尊阿彌陀如来ハ善光寺佛四

十八体之内なり昔盜賊の所為ありて

永劫に久しくして境内敷の中より脚首出たり

其形ハ尋ねた見之が依て金像は既ハ木像のほ

かゝると作りたりてありと未詳

○大聖寺 天台宗 東叡山末

○小濱浦の不動堂、清水寺の古堂と云てうづ

建るゝ相傳竹田といふ匠の建る如瓦一千年よ

近々獅子象頭外といふもの彫跡生る如

其他の花鳥精巧見つる一今は至りてハ半雨濕

と敷らき不朽又堪

○車堂 小濱堂前より石塔あり丸き櫃の如く三

三尺許 □ 如此目の中より車あり

○地彦順礼才三十四番

○證願寺 門徒宗昔ハ築地本願寺出張あり寺



○の名を多あり、燼番と申すなり、當住寺小い大くして  
水戸に證願寺大破れ及つると本山へ移る、此所へ  
移して二十四宗の舊跡と云

○長久寺 天台宗

彌陀願礼二十八番

○八幡宮 七濱浦八幡山より東と申す下総のよ

う高神の父耶々臺と申す山を名水面十六里許と  
或曰狗吠山ありといふハ非なり、狗吠山ハ海へ突  
出せる山として甚低し、按狗吠山礪石と産を俗にわびりり  
と云

○城趾 鑓田美濃守 天正十七年 今八幡山あり

○光明院 ハ作部 二十丁イ

地藏願礼才三十五番

○大井谷

○大光寺

伊南願礼才十七番

○貝須賀 貝渚

○湧泉寺 天台宗

本尊地彦大菩薩 或曰貝渚湧泉寺ハ昔一布施  
村名阿なまより母地ハ極々觀音臺のそ布施村あり



今又能泉をくく伊南れ所也 世所と能泉を村とふ  
後と能泉を

○ 鹿島を神官 大湫領伊南十社の惣社なり

○ 祭祀の月十五十社の神輿鹿島の社おより翠玉

○ 少彦く行は内着一社横切なりたる時其神輿の

○ 由る三乃の神輿初居行列に下り行と思はは又外

○ の神輿横切されお躬身須賀と出鹿島の神

○ 樂扇 日多々漸く少彦八幡山へ登る高浜灯

○ 燈敷之れを海と星と山中又前教一なる如く

○ 玄奇亞麻なり 予十歳の時始て 是相なり

○ 矢指戸 大井谷に橋ス或云往昔頼朝公の治世下流の畷

○ 蓮沼村より矢を指し一め九六町一本とさ

○ 矢指戸迄百本指矢とさ一なりたる如又矢指

○ 戸より戸止りたる意なり此地と三町三里と

○ 一卒九里と一なり其居村又矢指の神の洞あ

○ たり九十九里と白里とさ一と百の如くを除るる事あり

○ 雑色

○ 雑色村は廣常の男某者の雑舎の地を今畫す  
麦地とあり其俗相呼下本城畠とさ又麦地と圍

北



下七流あり古の溝渠の跡と見るも又地名も雑色といひ  
まは廣常り雑色をよみ候あり候其花ハ徵  
とよむるも足らざるも本郷と云雑色と云自撰め  
るふ候

○前より紀州の本城の麦田又操長野氏より人  
の宅あり土俗彼地を呼て畝傍といふ是又古  
池沼と知くく畝の形となせり後世まで好  
しわれハ後人呼て傍橋と字せるもよみ候

○本城畠の地と圍めるハ渠ハ一布を駕し橋とせり  
あり土俗彼橋と紫銅橋と呼其名古なり館の正

面と見ゆ古廣常が墓あり其墓銅より菟臺と  
造れる物ぐ一彼橋下より古瓦の摧たるを往堀  
出と鑿て硯となし候

○雑色村又匡王山金光寺といふ台の女の負判を相傳  
く廣常り男の善撰成なりと山足と云ぐち宮  
一廣常り石燈と云ふ其の五福と云ふも  
其体甚古質工人瘡を治るも不苦其辭を剥て冷め  
又投一吞一必後人視者五福のやありと訝る  
然どと世の俗墓上の誌も五福と建てるハたぐ一  
偏も功德とのみ候て不朽よきなり又鎌倉應神



祠の傍の賴朝の墓上至如の塔其他谷々々の墓上の塔  
 とを傳ふ事名有りて大なるは是又古俗と知る  
 ○ 雑色村の人傳へハ金光寺ハ古く金剛院といふ真言派  
 の修験の傳へ知る昔より上は大日の像と安せし何の  
 以てや隣村大井十王堂の傳奪云と息ふ又金剛院ハ  
 廣常が形跡不なるべし寺と名有りしハ国初以後の  
 事ト云く又大日ハ真言家ハ信するべし  
 此寺の傳へハ舊号と變するそのハ真言派あり  
 これハ或後世愚昧の僧別と光と方近りハ金  
 光寺と号せしなり

○ 本尊阿彌陀如来 弥陀頌礼才廿九番

○ 同一人の院より古く金光寺ハ狐塚と稱せし知あり今  
 其地分明あり相傳徳倉のハ狐靈と祠ると故に  
 土俗相傳て狐塚金光寺と稱す後のハ狐塚の号理  
 ならずと惡く代ふる今この号と以てし又寺室ハ野狐  
 の媚理あり今ハ夫と舊傳康治帝即位の後  
 妖狐宮女玉藻と化し物部と近く後顯て下毛野  
 奈須野ハ走る帝三浦上總の西女ハ命一將ハ是  
 又見つる玉藻ハ事素怪誅採ハ足らざるも姑く  
 廣常ハ身上ハ同く後人假託せるなりハ後ハ似たり



○ 雜色村の文塚より大なる古塚あり其人も何の塚  
トふ事と云ふ人思ふ又廣常没収の民庫中又藏  
とる如の省帳田文等を埋し地はるる也

○ 小澤

○ 長光寺 天台宗

彌陀頌礼三十番

○ 法性寺 天台宗

彌陀頌礼第三十二番

○ 岩船

○ 光明寺 日蓮宗

○ 東陽寺

伊南頌礼十八番

○ 能満寺 天台宗

本尊阿彌陀如来

善光寺佛四十八体之内

彌陀頌礼第三十一番此寺過玄帳又佐濃何某と云佐  
濃の渡牛久と佐濃の間古へ佐濃三郎国舌領セリ如  
と

○ 地差を東海へ出ぬ山嶼の如く又西面して海  
と背より今もそのうら遠くゆた

地差頌礼才三十六番惠心の作



或云地尊尊ハ右の傍より又錫杖とつてせ給ふ下野国  
岩船地尊尊の岩船地尊尊を傍より錫杖とつて給

○形三つ多形あり地尊尊の南よりあり古く岩の形三

形は似ありありおと名つく今船と似あり岩の  
とつあり是より山賦一又岩船田へ出ると

岩船より又沢へ出ると本及あり此を葦草席の名  
物小沢とてこし小植生の小沢とてこそ減出とて

○小池

○小池村は五妻明神の表あり今ハ蕨蕨系の礼典あり

く葦草土階をこし多如く山人相傳日本三社の其  
一とて按ずあり事とてハあり本列は三座あり

とて不事く五妻神社聖地郡五妻村より一座天照  
部一吉野村より一座とて三座とてふるは又側より

白旗明神とて葦草祠あり是又僅く四壁とてなと  
り又日本紀と考へ倭武尊 白鳥とて一陵より

飛去と白旗ありと原く思ふ又彼土五妻神社  
あり所由年代久遠とて今知くはんとて

三座とて佛法東漸以て又奈る形と見とて



○按ハ白旗ハ白鳥ト傳ル。其白鳥ハ神ハ日本武尊ノ。鹿野山ト多和具也。白旗明神ハ賴朝公ノ氏神也。鎌倉ト多和具也。今葦ノ席ト云々ト置ル。

○慈眼寺

伊南順礼才十九番田

○藥王寺 天台宗 東叡山末

○岩和田 岩曲 岩海

○小池ト岩和田ハ越ル山ト砂板ト我友東氏ノ傳ル下者如飛鳥上者似遲牛トハト云々ト外ハ云々ト。

○岩曲浦の里長の伝ハ彼土の海岸ト鰻魚大サト雨傘の如ク多クありト。蛭人トおそれテ云々ト。或ハ淫テ其殼トありト。時ハ海潮暴起ト実ハ神トありト。護守ト云々ト。

○或ハ白岩曲の蛇貝ハ浅ク岩船の蛇貝ハ深ク按ル又ハ瀛ノ島の流ル日ハ在ル浦ト。岩船の流中又ハある物ハ濃泥ノ氣トと食ル云々ト。肥テ肉ト多クあるト。房列ト龜トケ音ト。

○岩曲浦ト田尻ト云々ト。慶長十四年ハ己酉九月ト。五日夜ト説ト。番船ト漂ル云々ト。通船ト三百ト支ト酋長ト云々ト。いハ云々ト。不ハ彼土大宮寺ト。不ハ修ル家ト不ハ寄ル。



居 今普賢院  
の事也 今彼地の人書人裁来る如のものの佳  
家好

○三嶽山普賢院修驗聖護院配下山岩曲の古寺なる  
とん惣寺院の上座方より世寺より裁と如書人裁来  
三幅對のうげそののむ葎のめきそののよそを賣も文字  
そひつるは識たるそつて七言絶句一首と草履之  
袖中ハ竹西端ハ沉香なり袖の中又黒く光る砂  
あり彼土の砂あり

○又この五郎左馬方錦手の御別一對あり松又  
其外よりあるおきる人あり

○岩曲浦は裏卷といふあり後頂より望ハ房總  
の海直下より出人曰東南の交又當り雲霧  
の如く一嶋あり是れ八丈島なりとハ丈島ハ大較上  
総の東南より當る房別の地方と對せん又素本列と  
も不属々々洋と本別と定より古より隸よりと  
是又他邦の人の移候とらるるは是なり

○岩海の東のまは皆山なり其よりまねととんと  
云裏卷のしりなも

○海岸山大福寺 禪宗  
或曰寺室より夢窓国師の袈裟ありと師一卜度



能実村へ来りし時、此時徳り玉るるあり

○地藏堂

本尊惠心僧都佐地藏願礼才三十七番

○清光寺 天台宗

伊南願礼才二十米由

客殿本尊阿弥陀佛 弥陀願礼才三十三番

○淨願寺 大多の喜 淨願寺 出張

○安立寺 日蓮宗

○法蔵寺

○弥陀願礼才三十四番

○本尊薬師如来

石窓の中より彫刻

○大福寺の前より市東氏ありそのまゝ今と云蛇の同屋

ハ、蛇真珠より珠教と佐里家又蔵ス

○親玉は位之

○所宿郷里人曰往昔最明寺時頼公宿せり知ある

所より相いさくといふ付く古哥よ

法宿せりそまきまきとて同り

細代の法よゆのぐみの云

或日用害の松ありといは巻用害者云何と云







○安樂寺 春日 別當 天台宗

○阿比陀堂 弥陀頌礼のそと住持他出山田西施寺

○頌礼所又致交申素脚籤と伺ひ西施寺と定む

○東昌寺 禅宗

○西蓮寺 禅宗 里人さいろくどとふ

○高山田村の山中又弓折塚とふ知あり相傳割

○居の代里見氏万本と戦ひ地に至り里見氏  
戦破ま弦絶矢盡と

○房総治礼記を按ふ土岐氏二百五十騎と引率

○内野々洞から坂又陣とふ房別勢と侍居あり

房別勢久保坂へ向ふ此戦の時房別勢弓も引  
折矢種をもろくうりくふ





[Faint, illegible text on the left page]

[Faint, illegible text on the right page]



